

議員定数「検討すべき時期」

釧公大教授らと意見交換

釧路市議会

釧路市議会議会広報広聴特別委員会の板谷昌慶委員長と議会改革特別委員会の大越拓也委員長が7日、釧路公立大学を訪れ、学生との意見交換や議会改革について辻信幸教授ら3人と意見を交わした。このうち議員定数を現在の28から4減の24に改正する案を軸に話合っていることについて、教授陣は人口減などから「検討すべきタイミングが来ている」として理解を示した。

同議会は辞職などにより2025年2月以降、

実数24人で運営。この日は、これまでの議論で議会運営に不具合はないとの認識のほか、市が進める事務事業見直しに対する議会も身を切る改革を進める必要があるといった声が上がっていることなどを説明した。教授陣からは「定数削減後の展望が見えるよう検討してほしい」「住民の声も聞いた判断を」といった意見が寄せられた。

同大は昨年度から、1年生が議会の仕組みや役

割を学び、議員との意見交換会を行っている。2委員長からは「市外から来ている学生が多く、釧路について率直な意見を聞ける機会は貴重」、教授陣からは「政治や地域について知るきっかけになる」と継続に前向きな見解が示された。

大越委員長は「委員会内の自己満足で進めるのではなく有識者の指摘をもらいながら議会改革の指標にしたい」と述べた。

(河辺由記子)



議会改革などについて意見を交わす板谷委員長と大越委員長（左から）、辻教授（右から2人目）ら